

日本発ウィーン便り：ウィーンのお菓子

ウィーン滞在中には、難問が一つ。

美味しいものがたくさんある+どうしてもケーキは食べたい！という贅沢な、胃の調整の問題です◎

甘いもの好きだった、ハプスブルク王家の影響で、今でもウィーンには、「ハプスブルク王家御用達」をはじめ、たくさんの Konditorei（コンディトライ）やカフェがあります。

洗練された、しっかり甘いお菓子は、ちょっと深めに炒ったウィーンのコーヒーにぴったりです。

（あっさりして、甘さ控えめのお菓子が好き、という人には甘すぎるかもしれません）

春から夏はもちろん、外で！ウィーンでは、Schanigarten（シャニガルテン）って呼びます。



お店の中でケーキを選んで、Schanigarten の好きな席に座って、係の人に注文します。



泡立てたミルクたっぷりのコーヒー、Melange（メラーンシュ：ウィーン風に発音するとうなります）と一緒に。お隣に座ったドイツ人。Sachertorte（ザツハートルテ）を注文して、付いてきた山盛りの生クリーム（Schlagobers：シュラークオーバース）に驚いていましたので、ちゃんと食べ方教えてあげました。◎道行く人々や大道芸なんかを眺めながら、のんびりおいしいケーキを食べてコーヒーを飲んでいると「ああ、ウィーンにいるんだ」と実感するひと時です。

また違う日は、別のお気に入りのケーキ屋さんに行きましたが、残念ながら Schanigarten が満席だったので、店内へ。ここは、2階にあって、結構広々していて、なかなか居心地の良いお店です。



圧倒的に、ある年代以上の女性が多いです。でもウィーンでは、男性も、お酒も甘いものも好き。というのが一般的なので、男性客も多いですよ。(一人で来る男性も多いのです)



ここでは迷った挙句 Haustorte (ハウストルテ) を注文。いわば、そのお店の看板商品ですね。これまた Haustorte の名に恥じない、とても上品なケーキで大満足。ところで、ウィーンでコーヒーを頼むと、たいていお砂糖が2パックついてきます。ケーキと合わせる場合、さすがにこれは多すぎではないかと。(一つしか使いませんが)



いつも素敵なケーキ屋さんのショーウィンドウ。



チェックインして部屋に着いたら、ホテルからカードとプレゼントが部屋に届いていました。いつも泊まるホテルのオリジナルの濃厚チョコレートのケーキです。とっても美味しいので、大好きですし、ご丁寧にナイフとフォークまで用意されていましたが…。この大きさ、一人で食べるのは無理ですよ。☺



いつも大賑わいの Schanigarten。夜遅くまでいっぱいです。春から夏の楽しみですもんね。☺



観光にショッピング三昧も良いですが、たまには、こんな風景見ながらのんびりコーヒーも楽しいですよ。
美味しいウィーンはまた別の機会に！